

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	演習	科目名	ビジネス基礎マナー		
必修選択	選択	(学則表記)	ビジネス基礎マナー		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	歯科アシスタント科	1	30
使用教材	①サービス接客検定3級公式テキスト ②サービス接客検定3級実問題集 第46回～52回		出版社	①②早稲田教育出版	

科目の基礎情報②

授業のねらい	サービスの接客の学習を通して、ビジネスマナーの基礎を習得する。				
到達目標	礼儀正しいお辞儀や敬語が実践できる。 歯科アシスタントとして必要なマナーや考え方を理解して行動に移すことができる。				
評価基準	期末テスト50%、授業態度30%、小テスト20%				
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者 成績評価が2以上の者				
関連資格	サービス接客実務検定、秘書技能検定、ビジネス文書技能検定				
関連科目					
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する				
担当教員				実務経験	
実務内容					

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション サービススタッフの資質	授業の進め方について 顧客満足や“愛想・愛嬌”の理解や明るさや身だしなみ・応対マニュアルについて
2	専門知識 一般知識	サービス現場の仕事に関連する商業用語・経済用語とその意味について ことわざ・慣用語・物の教え方と時事の知識について
3	対人技能	他者への配慮・気遣い・思いやりと挨拶について 一般的なマナーや適切な服装について
4	対人技能	敬語の種類と敬語の役割について 接客用語の基本と話し方や説明の仕方について
5	実務技能	問題処理の対応手順や販売スタッフの発言について 環境整備について
6	実務技能	金品の受け渡しや会計時の対応や言葉遣いについて 慶事弔事の上書きや水引き・長寿の祝いなどについて

7	検定対策①	検定に向けた対策①
8	検定対策②	検定に向けた対策②
9	指示の受け方や報告の仕方	指示の受け方の基本について 報告の仕方の基本について
10	話し方の基本や聞き方の基本	話し方の基本について 聞き方の基本について
11	来客の受付と案内	取次のマナー・名刺の取り扱いについて 案内の手順とマナーについて
12	電話対応	電話の特性とマナーについて 電話の受け方、電話のかけ方について
13	文書作成	お礼のハガキの基本について
14	期末テスト	期末テストの実施
15	総まとめ	テストの振り返りと総まとめ

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	ペン字基礎		
必修選択	選択	(学則表記)	ペン字基礎		
		開講	単位数	時間数	
年次	1年	学科	歯科アシスタント科		15
使用教材	あなたも書き文字美人に きれいな文字の書きかた		出版社	二玄社	

科目の基礎情報②

授業のねらい	字に関する、きれいに書く技術・知識を身につける。				
到達目標	履歴書に誤字脱字なく、読みやすい字を書くことができる。 基本的なビジネス文書（メモなど）を読みやすく書くことができる。 正しく書くための、知識を説明できるようになる。				
評価基準	テスト（小テスト含む）60%、提出物30%、授業態度10%				
認定条件	出席が総授業時間の3分の2以上である者 成績評価が2以上の者				
関連資格	硬筆書写技能検定				
関連科目	歯科医療業務実践Ⅰ、Ⅱ ビジネス基礎マナー				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する				
担当教員			実務経験		
実務内容					

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション	授業の流れ、到達目標、評価、用具の説明
2	ひらがなの基本①	ひらがなの書き方①
3	ひらがなの基本②	ひらがなの書き方②
4	カタカナ、アルファベット、 数字	カタカナ、数字、アルファベットの書き方
5	筆順	正しい筆順で文字を書き、字形を整える
6	漢字①	基本点画

7	漢字②	字形の整え方
8	都道府県名	都道府県、県庁所在地名
9	日常書式①	名前の書き方
10	日常書式②	あて名書き
11	日常書式③	はがきの通信文、手紙
12	履歴書①	履歴書の書き方①
13	履歴書②	履歴書の書き方②
14	期末テスト	期末テストの実施
15	総まとめ	テストの振り返りと総まとめ

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	職業対策Ⅰ		
必修選択	選択	(学則表記)	職業対策Ⅰ		
開講			単位数	時間数	
年次	1年	学科	歯科アシスタント科	1	15
使用教材	なし		出版社	なし	

科目の基礎情報②

授業のねらい	歯科業界について理解を深める。 就職活動の流れに則り、就職試験対策を実施する。				
到達目標	自身が就職する歯科業界について理解し、説明できる。 就職活動がすぐに出来る状態(身だしなみ・履歴書・面接・意欲等)となっている。				
評価基準	面接評価40%、履歴書の完成度30%、授業態度20%、提出物10%				
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者 成績評価が2以上の者				
関連資格	なし				
関連科目	職業対策Ⅱ				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する				
担当教員		実務経験			
実務内容					

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション	授業の流れ、到達目標について
2	業界研究①	歯科業界について研究する
3	業界研究②	歯科業界について研究する
4	業界研究③	歯科業界について研究した成果を発表する
5	就職活動	就職活動についての概要説明
6	自己分析①	自己分析をする

7	自己分析②	自己分析をまとめる
8	就職試験に向けて	志望動機・自己PRを作成する
9	就職試験に向けて	求人票の見方、保険等について説明する
10	就職試験に向けて	受験のルールについて説明する
11	面接試験に向けて	面接試験時に聞かれる質問について学ぶ
12	面接試験に向けて	実際に面接を実施する
13	履歴書①	履歴書の書き方を学ぶ
14	履歴書②	履歴書の書き方を学ぶ
15	まとめ	これまでの授業を振り返り、総まとめを行う

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	職業対策Ⅱ		
必修選択	選択	(学則表記)	職業対策Ⅱ		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	歯科アシスタント科	1	15
使用教材	なし		出版社	なし	

科目の基礎情報②

授業のねらい	歯科業界について理解を深める。 就職活動の流れに則り、就職試験対策を実施する。				
到達目標	実習に向けて心構えができ、自信を持って現場で実習に取り組むことができる。 社会人として、現場で即戦力として働くことができる状態になっている。				
評価基準	面接評価50%、授業態度（面接練習の完成度含む）40%、提出物10%				
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者 成績評価が2以上の者				
関連資格	なし				
関連科目	職業対策Ⅰ				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する				
担当教員				実務経験	
実務内容					

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	後期に向けて	今後の予定確認と目標立て
2	歯科医院実習に向けて ①	実習の概要と目的を理解する
3	歯科医院実習に向けて ②	実習に向けての準備をする
4	歯科医院実習に向けて ③	実習に向けての準備をする
5	歯科医院実習に向けて ④	実習に向けての準備をする
6	歯科医院実習に向けて ⑤	実習に向けての準備をする

7	実習振り返り ①	実習の振り返りを行う
8	実習振り返り ②	実習の振り返りをまとめる
9	実習振り返り ③	実習の振り返り発表する
10	面接練習 ①	面接対策を実施する
11	面接練習 ②	面接対策を実施する
12	面接練習 ③	面接対策を実施する
13	就職後に向けて①	社会人として必要な力について学ぶ
14	就職後に向けて②	社会人として必要な力について学ぶ
15	総まとめ	これまでの授業を振り返り、総まとめを行う

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	演習	科目名	歯科医療事務実践Ⅰ		
必修選択	必修	(学則表記)	歯科医療事務実践Ⅰ		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	歯科アシスタント科	2	60
使用教材	①歯科医療事務 症例と解説 ②受付事務と医療保険制度 ③歯科医療事務過去問題集		出版社	①②アイデンタルサービス ③ユアサポート	

科目の基礎情報②

授業のねらい	医療制度を学び現場での即戦力を身に付ける				
到達目標	診療報酬請求の方法を学び、レセプト作成が出来るようになる				
評価基準	期末テスト50%、小テスト20%、提出物20%、授業態度10%				
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者 成績評価が2以上の者				
関連資格	歯科医療事務検定1級、診療報酬請求事務能力認定試験（歯科）				
関連科目	歯科医療事務実践Ⅱ				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する				
担当教員		実務経験			
実務内容					

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション 医療保険の概要	目的・授業内容・評価方法の説明 医療保険制度・医療保険のしくみ・医療保険の構成・医療保険の種類
2	医療保険の概要/受付事務	医療保険制度・医療保険のしくみ・医療保険の構成・医療保険の種類 保険証の扱い・金銭の扱い・カルテの上書き・保険証の見分け方
3	小テスト/基本診療料	小テストの実施 点数表の見方・カルテの算定、初診料・再診料・各加算について
4	C（う蝕）	う蝕の治療法と流れ・充形に含まれるもの 充填・1歯2窩洞
5	C（う蝕）	
6	C（う蝕）	窩洞形成・麻酔（浸麻のルール）・除去料・画像診断

7	C (う蝕)	NO 1～NO 3までの復習 乳幼児加算
8	C (う蝕)	インレー説明・修形に含まれるもの 早期充填処置・う蝕薬物塗布処置
9	小テスト/C (う蝕)	小テストの実施 コンビネーション
10	歯髄炎	歯髄炎の治療法と流れ・投薬料
11	歯髄炎	
12	根尖性歯周炎	根尖性歯周炎の治療法と流れ・処方箋料
13	根尖性歯周炎/歯冠修復	根尖性歯周炎の治療法と流れ・処方箋料 歯冠修復の流れ
14	期末テスト/歯冠修復	期末テストの実施 歯冠修復の流れ
15	歯冠修復/総まとめ	歯冠修復の流れ テストの振り返りと総まとめ

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	演習	科目名	歯科医療事務実践Ⅱ		
必修選択	選択	(学則表記)	歯科医療事務実践Ⅱ		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	歯科アシスタント科	2	60
使用教材	①歯科医療事務 症例と解説 ②受付事務と医療保険制度 ③歯科医療事務過去問題集		出版社	①②アイデンタルサービス ③ユアサポート	

科目の基礎情報②

授業のねらい	医療制度を学び現場での即戦力を身に付ける				
到達目標	診療報酬請求の方法を学び、レセプト作成が出来るようになる				
評価基準	期末テスト50%、小テスト20%、提出物20%、授業態度10%				
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者 成績評価が2以上の者				
関連資格	歯科医療事務検定1級、診療報酬請求事務能力認定試験（歯科）				
関連科目	歯科医療事務実践Ⅰ				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する				
担当教員		実務経験			
実務内容					

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	歯科医療事務実践Ⅰの復習 歯周疾患	歯科医療事務実践Ⅰの復習 歯周疾患の治療と流れ・スケーリング
2	歯周疾患	歯周疾患の治療と流れ SRP・咬調
3	歯周疾患	歯周疾患の治療と流れ P処・GA切開・暫間固定・歯周外科手術・SPT
4	小テスト/手術/その他	小テストの実施 拔牙・手術
5	手術/その他	拔牙・消炎処置・WZ摘出
6	手術/その他	未来院・修理・診療情報提供料・顎関節症・歯ぎしり

7	ブリッジ	ブリッジ作製手順
8	ブリッジ/義歯	ブリッジ作製手順 有床義歯作製手順・床適合・修理
9	義歯/小テスト	有床義歯作製手順・床適合・修理 小テストの実施
10	検定対策	総復習・過去問題集
11	検定対策	総復習・過去問題集
12	公費負担/ 労災/返戻処理	都道府県、市町村の公費・生活保護(12)・原爆(20)・返戻処理
13	レセコン実習	レセコン操作説明・上書き入力 カルテ症例入力
14	期末テスト/レセコン実習	期末テストの実施 カルテ症例入力
15	レセコン実習/総まとめ	カルテ症例入力 テストの振り返りと総まとめ

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	受付・カウンセリングⅠ		
必修選択	選択	(学則表記)	受付・カウンセリングⅠ		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	歯科アシスタント科	1	15
使用教材	歯科スタッフのマナーと実践マニュアル		出版社	一般財団法人 口腔保健協会	

科目の基礎情報②

授業のねらい	一社会人として歯科医院で従事する際の基本的マナーや一般常識を習得する。 スタッフ間、患者さんとの信頼関係を構築する重要性を学び、各ケースによる対応を習得する。 受付に求められる資質、歯科に特化した事務的内容を理解する。				
到達目標	社会人としての基本的知識と行動を理解し職場で実践できる。 受付としての業務内容を理解し、対応ができる。 医院全体の動きと受付との関係を理解し、受付業務以外の仕事内容にも結びつけて対応ができる。				
評価基準	期末テスト50%、ロールプレイング40%、授業態度10%				
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者 成績評価が2以上の者				
関連資格	なし				
関連科目	ビジネス基礎マナー、受付・カウンセリングⅠ				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する				
担当教員				実務経験	
実務内容					

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション デンタルスタッフの一員として①	この授業の目的と到達目標について 歯科医院でのスタッフの業務内容と受付の重要性について
2	デンタルスタッフの一員として②	信頼される歯科医院にするための歯科アシスタントの心得について 職場での人間関係について
3	デンタルスタッフの一員として③ 社会人としての基本的マナー①	指示の受け方と報告の仕方について 職場でのマナーについて
4	社会人としての基本的マナー②	敬語について 来客への対応について
5	一日の仕事の流れ	朝の院内点検について 終業時の後片付けと翌日の準備について
6	初診患者の受付対応①	初診患者の一連の対応の流れについてロールプレイング 必要書類（保険証、カルテ、問診表、診察券、紹介状など）について
7	初診患者の受付対応② 再来初診患者と再来予約患者の対応	問診表についてのロールプレイング

8	治療後の対応①	会計、薬のお渡し、予約までの流れについてロールプレイング
9	治療後の対応②	アポイントメントシステムについて 予約を取る際の注意点について
10	ロールプレイング	初診～会計～予約まで必要な書類も準備についてロールプレイング
11	ロールプレイングまとめ	一連のロールプレイングの流れのまとめ
12	電話対応	電話対応の基本について 電話の受け方と取り次ぎ方、かけ方について
13	歯科で取り扱う文書	カルテ、処方箋、歯科技工指示書、紹介状、領収書、収支日計表について リコールはがきについて
14	期末テスト	期末テストの実施
15	総まとめ	テスト振り返りと総まとめ

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	受付・カウンセリングⅡ		
必修選択	選択	(学則表記)	受付・カウンセリングⅡ		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	歯科アシスタント科	1	15
使用教材	歯科スタッフのマナーと実践マニュアル		出版社	一般財団法人 口腔保健協会	

科目の基礎情報②

授業のねらい	多様化する歯科の治療と患者様のニーズに対し、個々の患者さんに応じた傾聴や対話するスキルを習得する。歯科医院と患者様との良好なパイプ役となるよう、それらの知識と技術を習得する。				
到達目標	コーディネーターの役割と業務内容が理解できる。 カウンセリングシステムと準備ツールを理解し、基本的なカウンセリングができる。 QOLをふまえたわかりやすい治療説明の基礎を理解し、実施することができる。				
評価基準	期末テスト50%、ロールプレイング30%、小テスト10%、授業態度10%				
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者 成績評価が2以上の者				
関連資格	なし				
関連科目	受付・カウンセリングⅠ				
備考	原則、この科目は対面授業形式で実施し、一部オンデマンド型遠隔授業を併用する				
担当教員			実務経験		
実務内容					

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション 変革する歯科医院の体制	前期の振り返り コーディネーターの主な業務内容について
2	カウンセリングシステム	患者様とのコミュニケーションについて カウンセリング手法について
3	安心、好感、信頼を持ってもらう態度とは	カウンセリングの時期と環境について 患者さんが心を開く態度と言葉がけについて
4	カウンセリング力を養う	聴く力と洞察力について
5	必要な情報提供を説明するには	患者さんの思いをサポートできる説明方法について
6	ロールプレイング①	ロールプレイング①(傾聴)
7	ロールプレイング②	ロールプレイング②(説明)

8	ロールプレイングまとめ	まとめ
9	歯科医院で働く上での注意点①	受付の身だしなみ、マナーについて①
10	歯科医院で働く上での注意点②	受付の身だしなみ、マナーについて②
11	カウンセリングをするにあたっての使用ツール	効果的なツールの活用法について ツールを使いながら順序立てての説明の実践
12	補綴カウンセリング	各補綴物の特徴とよくある質問について
13	カウンセリングシートの活用法	カウンセリングシートから院内スタッフに情報共有するメリットと留意点について
14	期末テスト	期末テストの実施
15	総まとめ	テスト振り返りと総まとめ

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	基礎歯学Ⅰ		
必修選択	必修	(学則表記)	基礎歯学Ⅰ		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	歯科アシスタント科	1	15
使用教材	歯科アシスタントのためのやさしい基礎医学		出版社	学校法人三幸学園 (日本教育クリエイト)	

科目の基礎情報②

授業のねらい	永久歯、乳歯の本数を把握し、歯式での表し方、読み方を習得する。 歯と歯周組織、口腔組織について各々の構造や働きを習得する。				
到達目標	歯科基礎知識を習得し、歯科に関わる疾患がどのような症状かを考え、患者様に説明できるようになる。				
評価基準	期末試験50%、小テスト40%、授業態度10%				
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者 成績評価が2以上の者				
関連資格	歯科助手検定1級				
関連科目	基礎歯学Ⅱ				
備考	原則、この科目は対面授業形式で実施する				
担当教員				実務経験	
実務内容					

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション	授業の目的、到達目標、評価方法について
2	永久歯、乳歯の正式名称と歯番、歯式	永久歯、乳歯の本数、歯の断面構造（概略）、消化器としての歯の役割、歯はどのように生えているか
3	歯式での歯の表し方	歯式での表し方、表現、使い方、病名ごとのまとめ方、欠損歯、支台歯の表現
4	歯の構造	歯の構造、断面構造、エナメル質、象牙質、セメント質、歯根膜、歯槽骨の構造と虫歯の関連
5	歯の構造方向用語と歯面	前歯部、臼歯部の構造、近遠心、唇（頬）面の別、臨床的な歯の用語
6	根数と根管数	根と根管の違いについて
7	歯はどこに生えているのか	歯周組織の名称、歯肉の分類、歯槽骨、頭蓋骨、全身骨格の中の歯の位置、歯周病を示唆

8	口腔各部の名称・口腔の働き	顔面、口腔の名称と役割、パキウム、義歯作成との関連 食物、呼吸の流れと口腔の位置と関連
9	歯の一生とはえかわり	生え替わりの基本用語、乳歯から永久歯への流れ
10	舌の構造と働き	舌の構造、感覚器としての舌、咀嚼、嚥下と舌との関わり
11	唾液の作用	唾液の作用、唾液腺の名称、唾液と虫歯との関わり、誤嚥性肺炎
12	復習	2～11の復習を実施。
13	歯、お口の情報発信1	ポスター、ニュースレター作成を通じて既習項目を定着させる
14	期末試験	期末試験の実施
15	テストの振り返りと総まとめ	解答・解説と総まとめ

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	基礎歯学Ⅱ		
必修選択	選択	(学則表記)	基礎歯学Ⅱ		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	歯科アシスタント科	1	15
使用教材	歯科アシスタントのためのやさしい基礎医学		出版社	学校法人三幸学園 (日本教育クリエイト)	

科目の基礎情報②

授業のねらい	人体の構造や各組織の口腔への関わりを学習し、理解する。				
到達目標	歯の痛みはなぜ感じるのか、口腔内疾患が全身に及ぼす影響がどのようなものかを学習することで、口腔・一般解剖を理解し、説明できるようになる。				
評価基準	期末試験50%、小テスト40%、授業態度10%				
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者 成績評価が2以上の者				
関連資格	歯科助手検定1級				
関連科目	基礎歯学Ⅰ				
備考	原則、この科目は対面授業形式で実施する				
担当教員				実務経験	
実務内容					

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	上顎骨 下顎骨	上顎骨の各部の名称と役割を知る 下顎骨の各部の名称と役割を知る
2	咀嚼筋の働き	咀嚼に関わる筋肉の働きとその位置を知る
3	口腔、口腔周囲の血管	血管の位置、働きを確認する
4	口腔に関わる神経、局所麻酔	神経の位置をしり、麻酔の範囲なども関連して学習する
5	歯の異常	歯の異常とその原因を学ぶ
6	歯列の異常	歯列の異常とその原因、治療などにもふれる
7	歯の痛みと感覚	痛みの原因、感覚の伝達などを学ぶ

8	人体の基本構造	人体の基本構造を学ぶ
9	循環器、循環に関する病気、障害	循環器の働きと病気・障害を学ぶ
10	呼吸と口腔、嚥下	呼吸、嚥下のメカニズムについて学ぶ
11	歯科助手検定対策	検定対策
12	歯科助手検定対策	検定対策
13	歯、お口の情報発信2	ポスター、ニュースレター作成を通じて既習項目を定着させる
14	期末試験	期末試験の実施
15	テストの振り返りと総まとめ	解答・解説と総まとめ

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	微生物・病理・薬理Ⅰ		
必修選択	選択	(学則表記)	微生物・病理・薬理Ⅰ		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	歯科アシスタント科	1	15
使用教材	歯科アシスタントのためのやさしい基礎医学		出版社	学校法人三幸学園 (日本教育クリエイト)	

科目の基礎情報②

授業のねらい	アシスタントとして微生物を学ぶことにより、病気の基識を習得する。				
到達目標	歯科医院で行われている滅菌と消毒について理解し実際にできる。 感染の経路を知る事で予防対策を考える事ができる。 医療従事者として病気のしくみを学ぶことで、問診票から得られる情報を歯科治療と関連できる。				
評価基準	期末テスト50%、小テスト40%、授業態度10%				
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者 成績評価が2以上の者				
関連資格	歯科助手検定1級				
関連科目	微生物・病理・薬理Ⅱ				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する				
担当教員		実務経験			
実務内容					

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション 【微生物】微生物とウイルス	授業の目的、到達目標、評価方法について 生物界での位置づけ
2	微生物とウイルスはどんなものか	微生物とウイルスの分類と特徴
3	細菌の基本的性質	細菌やウイルスの基本的性質を学ぶ
4	常在菌（口腔と微生物）	口腔内常在菌 口腔疾患と微生物について学ぶ
5	感染	感染と汚染、感染と発病 キャリアーについて
6	感染がなりたつ条件	微生物側と生体側の条件
7	感染とその予防	微生物の侵入経路

8	いろいろな感染パターン	不顕性感染等について
9	アシスタントとしての感染予防 歯科診療室での感染と経路	滅菌と消毒について、具体的な感染予防について（スタンダードプレコーション） 針刺し事故の対応
10	病原体と病気	ウィルス性肝炎（A型・B型・C型）
11	病原体と病気	エイズその他のウィルス性疾患 微生物やウィルスにかかわる問題
12	【病理】 病気のなりたち	病気はなぜ起こるか（病因と抵抗力）
13	病気のなりたち	抵抗力について 免疫について
14	期末テスト	期末テストの実施
15	総まとめ	テストの振り返りと総まとめ

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	微生物・病理・薬理Ⅱ		
必修選択	選択	(学則表記)	微生物・病理・薬理Ⅱ		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	歯科アシスタント科	1	15
使用教材	歯科アシスタントのためのやさしい基礎医学		出版社	学校法人三幸学園 (日本教育クリエイト)	

科目の基礎情報②

授業のねらい	アシスタントとして口腔内のみならず、病気や薬剤の基礎知識を習得する。				
到達目標	問診票から得られる情報を歯科治療時や投薬時に役立たせることができる。 薬の取り扱いを知ることによって、患者様に薬の正しい服用方法を説明することができる。				
評価基準	期末テスト50%、小テスト40%、授業態度10%				
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者 成績評価が2以上の者				
関連資格	歯科助手検定1級				
関連科目	微生物・病理・薬理Ⅰ				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する				
担当教員				実務経験	
実務内容					

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション 病気の種類	授業の目的、到達目標、評価方法について 遺伝性疾患・遺伝子異常による病気・奇形（形の異常・形成不全）
2	局所の循環障害	貧血・充血・虚血・うっ血・出血・水腫・梗塞・塞栓・吐血・喀血・下血の説明
3	全身的な循環障害 ショックと脳貧血	ショックの特徴と障害 脳貧血の特徴と予防対策
4	脳貧血について	脳貧血の症状と脳貧血の時の処置法
5	炎症	炎症の五大徴候、炎症のメカニズム、炎症の種類
6	炎症	化膿性炎の種類 重い炎症の患者さん対応
7	細胞の障害と治療 (退行性病変・進行性病変)	壊死と壊疽・変性と萎縮 アポトーシス・創傷の治癒、う蝕は治るか

8	腫瘍	腫瘍の分類と特徴、口腔癌について
9	【薬理】 薬剤とはなにか	薬剤の位置づけ
10	薬剤の取り扱い	毒薬・劇薬の管理 薬剤投与後の注意
11	薬剤と生体	薬剤の分解排泄、投与方法と特徴,投与量について
12	薬剤の作用	主作用・副作用,併用と連用
13	歯科で投与される薬剤	抗生物質と鎮痛剤
14	期末テスト	期末テストの実施
15	総まとめ	テストの振り返りと総まとめ

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	歯科保健学		
必修選択	選択	(学則表記)	歯科保健学		
開講			単位数	時間数	
年次	1年	学科	歯科アシスタント科	1	15
使用教材	なし		出版社		

科目の基礎情報②

授業のねらい	口腔内の病気や予防の基本知識を把握し、口腔と周辺の公衆衛生活動を自ら実践し、啓発につなげられる基礎力をつける。				
到達目標	歯科医師、歯科衛生士、歯科助手の各々の業務の範囲を認識することができる。 チームメンバーとして医療知識をベースにして行動できる。 口腔のみならず社会環境を理解し、自身の生活環境を向上させることができる。 歯科保健活動の一環として、診察室・待合室に患者に向けた啓発ポスター等を啓発ツールの作製することができる。				
評価基準	期末試験50%、レポート・製作物40%、授業態度10%				
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者 成績評価が2以上の者				
関連資格	歯科助手検定1級				
関連科目	なし				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する				
担当教員		実務経験			
実務内容					

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション 口腔の健康と予防（口腔衛生）	オリエンテーション（授業の目的、到達目標、評価方法） 保健学を学ぶ意義 口腔衛生と予防・今の日本のう蝕と歯周病の状況 全身とのつながり
2	う蝕の予防（口腔衛生）	う蝕の発生要因
3	う蝕の予防（口腔衛生）	う蝕の予防法 フッ化物によるう蝕予防・歯磨剤とフッ素
4	歯口清掃（口腔衛生）	歯・口腔の付着物、沈着物
5	歯口清掃（口腔衛生）	口臭
6	歯口清掃（口腔衛生）	口腔清掃
7	歯周疾患の予防（口腔衛生）	歯周疾患の分類、症状

8	歯周疾患の予防（口腔衛生）	発症の要因 歯周疾患の予防法
9	その他の疾患・異常（口腔衛生）	う蝕・歯周疾患以外の病気について
10	ライフステージごとの口腔保健	母子、小児、成人、高齢者の口腔保健
11	歯科疾患と栄養（栄養）	栄養とは 歯科かみた食生活と栄養
12	健康と公衆衛生（公衆衛生）	公衆衛生とは 健康と予防医学の概念
13	病気の予防（公衆衛生）	感染症と予防
14	期末テスト	期末テストの実施
15	総まとめ	虫歯予防週間等、院内での啓発運動で貼りだすポスター・パンフレット作成

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	保存・補綴Ⅰ		
必修選択	選択	(学則表記)	保存・補綴Ⅰ		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	歯科アシスタント科	3	45
使用教材	歯科アシスタントのためのやさしい歯科臨床		出版社	学校法人三幸学園 (日本教育クリエイト)	

科目の基礎情報②

授業のねらい	歯科助手として必要なむし歯の知識を身につける				
到達目標	虫歯の治療方法にあった器材の準備ができるようになる。 虫歯や予防に対して説明することができる。				
評価基準	期末試験50%、小テスト40%、授業態度10%				
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者 成績評価が2以上の者				
関連資格	歯科助手検定1級				
関連科目	保存・補綴Ⅱ				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する				
担当教員				実務経験	
実務内容					

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション	オリエンテーション（授業の目的、到達目標、評価方法） 病院や歯科医院で働く前に歯科の病気と治療の分野を知る、診療のための情報集め
2	むし歯と歯質欠損	歯の構造と名称～むし歯
3	むし歯と歯質欠損	C以外の欠損～面、窩洞、咬耗、破折、Hys、酸蝕
4	治療の前に	口腔内審査～治療方法決定のために スタディモデル
5	治療の前に	X線
6	治療の前に	歯科麻酔・血管収縮薬
7	治療の前に	防湿法

8	復習・小テスト	1～7の復習、小テストの実施
9	むし歯の治療	覆罩
10	むし歯の治療	光重合型コンポジットレジン・充填・ブラック窩洞
11	むし歯の治療	修復ガラスアイオノマーセメント修復・隔壁
12	むし歯の治療	インレー修復
13	復習・小テスト	4～7の復習。 9～12の復習と小テスト
14	期末試験	期末試験の実施
15	まとめ	解答・解説とまとめ

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	保存・補綴Ⅱ		
必修選択	選択	(学則表記)	保存・補綴Ⅱ		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	歯科アシスタント科	3	45
使用教材	歯科アシスタントのためのやさしい歯科臨床		出版社	学校法人三幸学園 (日本教育クリエイト)	

科目の基礎情報②

授業のねらい	歯科助手として必要なむし歯と歯周病の知識を身につける				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・虫歯と歯周病の治療方法にあった器材の準備ができるようになる。 ・治療に対しての患者からの質問に受け答えができるようになる。 ・虫歯や歯周病の予防に対して説明することができる。 				
評価基準	期末試験50%、小テスト40%、授業態度10%				
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者 成績評価が2以上の者				
関連資格	歯科助手検定1級				
関連科目	保存・補綴Ⅰ				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する				
担当教員				実務経験	
実務内容					

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	歯根の治療	歯髄炎・根尖性歯周炎、テスト対策
2	歯根の治療	歯髄切断法・抜髄
3	歯根の治療	感染根感処置・外科療法
4	歯根の治療	根管充填
5	歯冠補綴	コア構造・補綴の種類・患者ケア
6	補綴治療 補綴のラボワーク	ブリッジ 実習前復習
7	補綴治療	部分床義歯(P・D)

8	補綴治療	総義歯・義歯の修理・調整・装着後のケア
9	歯周病の治療	歯周病の診査と治療
10	歯周病の治療	歯周病の外科治療
11	検定対策	傾向と対策
12	期末テスト	期末試験の実施
13	補綴治療	インプラントについて 構造・流れ・注意点
14	歯を白く保つために	着色・変色・ホームケア・ホワイトニング
15	総まとめ	解答・解説と総まとめ

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	演習	科目名	口腔外科・矯正		
必修選択	選択	(学則表記)	口腔外科・矯正		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	歯科アシスタント科	1	30
使用教材	歯科アシスタントのためのやさしい歯科臨床		出版社	学校法人三幸学園 (日本教育クリエイト)	

科目の基礎情報②

授業のねらい	口腔外科処置（一般的な抜歯・難抜歯・切開排膿）等を理解する。 不正咬合の種類を理解する。また矯正治療時の患者さんへのケアと注意事項を理解する。				
到達目標	清潔域と不潔域の概念が分かる。 使用器具が準備できる。 抜歯後の注意事項が言うことができる。				
評価基準	期末試験50%、小テスト40%、授業態度10%				
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者 成績評価が2以上の者				
関連資格	歯科助手検定1級				
関連科目	なし				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する				
担当教員		実務経験			
実務内容					

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション 口腔外科の位置づけ	オリエンテーション（授業の目的、到達目標、評価方法） 口腔外科の基礎知識 口腔外科とは 感染予防対策
2	口腔外科が扱う病気	形態異常・萌出の異常 舌と唾液腺の疾患
3	口腔外科が扱う病気	顎骨の炎症 神経疾患・腫瘍
4	外科的処置	外科的処置アシストのポイント 処置の実際
5	外科的処置	抜歯・難抜歯の適応症と手順、使用器具
6	外科的処置	抜歯後の注意事項 抜歯窩の治癒
7	外科的処置	小帯切除術・歯根端切除術 外傷

8	救急蘇生法	救急蘇生法とは 救急蘇生の手順 ショック
9	歯科矯正の基礎	矯正治療の目的 理想的な咬み合わせ
10	歯科矯正の基礎	咬合の異常
11	歯科矯正の基礎	アングルの分類 不正咬合の原因
12	矯正治療の前に	顎・顔面の発育パターン 治療開始時期
13	矯正治療	矯正治療の基礎と実際 矯正治療の種類 患者さんへのケア
14	期末テスト	期末テストを実施
15	総まとめ	期末試験解答・解説と総まとめ

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	小児歯科診療		
必修選択	選択	(学則表記)	小児歯科診療		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	歯科アシスタント科	1	15
使用教材	歯科アシスタントのためのやさしい歯科臨床		出版社	学校法人三幸学園 (日本教育クリエイト)	

科目の基礎情報②

授業のねらい	乳歯列期から混合歯列期を経て永久歯列に交換するまで小児の身体的・生理的・精神的な発育等を理解する。年齢に合った対応や、治療の際のアシスタントとしての注意点を身につける。				
到達目標	乳歯列から混合歯列期、永久歯列期における口腔内を説明することができる。 それぞれの年齢層の小児にあった対応ができる。 保護者に治療内容を説明することができる。				
評価基準	期末テスト50%、レポート40%、提出状況10%				
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者 成績評価が2以上の者				
関連資格	歯科助手検定1級				
関連科目	なし				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する				
担当教員			実務経験		
実務内容					

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション 小児の発育と小児歯科	授業の進め方 心と体の発達について、運動・言語・情動の発育
2	小児の口腔・全身の病気	口腔の発育
3	小児の口腔・全身の病気	乳歯の特徴と乳歯う蝕の特徴
4	小児歯科での診療と介助	乳歯う蝕の与える影響、う蝕以外のお口の病気
5	小児歯科での診療と介助	介助の基本、診査・麻酔・防湿
6	小児歯科での診療と介助	う蝕に対する処置
7	小児歯科での診療と介助	歯内療法

8	小児歯科での診療と介助	咬合誘導と外科処置
9	小児歯科での診療と介助	小児と薬、リコール
10	小児の患者さんへの対応	小児対応の基礎知識
11	小児の患者さんへの対応	小児対応の具体的な方法
12	障害児の歯科診療	障害児の基礎知識、治療方法、障害児介助
13	こどものお口とおやつ	こどもの体と間食、おやつを提供
14	期末テスト	期末試験の実施
15	総まとめ	テストの振り返りと総まとめ

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	実技	科目名	チェアサイド実習Ⅰ		
必修選択	必修	(学則表記)	チェアサイド実習Ⅰ		
開講					
年次	1年	学科	歯科アシスタント科	単位数	2
使用教材	歯科衛生士教本 歯科診療補助論・歯科機器			出版社	医歯薬出版

科目の基礎情報②

授業のねらい	歯科助手として基本的な介助方法と患者対応を身につける。 相互実習を通して患者の気持ちを理解する。				
到達目標	各治療の術式に沿ったスムーズな介助ができる。 歯科機器や器具、歯科材料の取り扱い方、消毒滅菌の知識を習得する。				
評価基準	期末試験40%、小テスト30%、提出物20%、授業態度10%、				
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者 成績評価が2以上の者				
関連資格	歯科助手検定1級				
関連科目	材料実習Ⅰ、保存・補綴Ⅰ、チェアサイド実習Ⅱ				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する				
担当教員		実務経験			
実務内容					

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション 歯科診療室と診療台の基礎知識	実習授業のルール、身だしなみ、実習室の設備・名称 診療台（ユニット）の各名称・用途・操作方法・清掃法、コンプレッサーの操作
2	ユニットの整備	診療開始前後の清掃、点検、ユニットの各部の清掃法・消毒法
3	消毒と滅菌 感染予防	感染予防の意義、消毒と滅菌について 感染性廃棄物の処理の種類、リスク患者の感染防止、薬液消毒液の種類と用途
4	基本セット 基本セットの消毒・滅菌	基本セットの名称、用途、並べ方、持ち方。 基本セットの消毒・滅菌、滅菌済みの基本セットのセッティング実践。
5	診療所における受診の流れ 患者誘導	患者対応の基本、ユニットへの患者誘導 特別配慮が必要な患者対応（小児、高齢者、障がい者等の患者誘導）
6	衛生材料の取り扱い	ワッテの使用法の理解と作成実践 滅菌法
7	共同作業	ユニットの治療準備～患者誘導～患者水平ユニット操作～ライティング～ 術者と補助者の位置と姿勢～治療終了後患者誘導～使用器具の消毒滅菌までの流れの実践

8	バステクニック 切削用機器と切削器具	フォーハンドの原則、器具の受け渡しの注意点、各器具の持ち方による受け渡しの実践 麻酔のセット・注射針の廃棄方法、切削装置の種類と用途、パー、ポイントの着脱の実践
9	バキューム操作①	スリーウェイシリンジテクニック実践、バキュームの目的、注意事項、種類 バキューム（曲）相互実習
10	バキューム操作②	バキューム（直）相互実習
11	バキューム操作③ 簡易防湿	バキューム相互実習復習（苦手部位の克服） ロールワッテの挿入、交換、除去の介助
12	ラバーダム防湿	使用器具、名称、用途、手順
13	X線	X線撮影の流れ（患者誘導）フィルムの固定法 X線写真の各現像方法、インスタント現像の実践
14	期末テスト	期末試験の実施
15	総まとめ	テストの振り返りと総まとめ

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	実技	科目名	チェアサイド実習Ⅱ		
必修選択	選択	(学則表記)	チェアサイド実習Ⅱ		
開講					
年次	1年	学科	歯科アシスタント科	単位数	2
使用教材	歯科衛生士教本 歯科診療補助論・歯科機器			出版社	医歯薬出版

科目の基礎情報②

授業のねらい	臨床実習に向け、また歯科助手検定1級取得のため知識と技術をしっかり身につける。				
到達目標	各治療法について流れや使用器材・歯科材料について、臨床で応用できるように習得する。 歯科助手検定1級取得を取得する。				
評価基準	期末試験40%、小テスト30%、提出物20%、授業態度10%、				
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者 成績評価が2以上の者				
関連資格	歯科助手検定1級				
関連科目	材料実習Ⅱ、保存・補綴Ⅱ、チェアサイド実習Ⅰ				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する				
担当教員		実務経験			
実務内容					

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	光CR修復診療介助	光CRの術式、使用器材の名称、用途 トレーセッティング
2	歯内療法の診療介助①	抜髄の術式、使用器材の名称、用途 トレーセッティング
3	歯内療法の診療介助②	根充の術式、使用器材の名称、用途 トレーセッティング
4	口腔外科の診療介助	難抜歯の術式、使用器材の名称、用途、トレーセッティング 持針器のセット、メスの替え刃のセットとパスの実践
5	補綴治療の診療介助	補綴治療の例と診療介助流れと使用器材の名称、用途 クラウン、ブリッジの診療介助実践
6	口腔内診査の介助 歯周病検査の介助	歯式の記入実践、ブランク染め出しPCRの記入実践 染め出し後のブラッシング指導
7	臨床実習対策・復習	実習時に必要な技術を復習する

8	臨床実習振り返り	実習の振り返りを実施
9	歯科助手検定対策	トレーセッティング練習
10	歯科助手検定対策	トレーセッティング練習
11	歯科助手検定対策	トレーセッティング練習
12	暫間被覆冠①	暫間被覆冠の目的、種類、作成手順、使用器材の名称、使途 即時重合レジンの扱い方（筆積み）
13	暫間被覆冠②	印象採得を使用しての模型上での作成手順、使用器具の名称、使途 仮着材練和
14	期末テスト	期末テストの実施
15	総まとめ	テストの振り返りと総まとめ

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	実技	科目名	材料実習Ⅰ		
必修選択	選択	(学則表記)	材料実習Ⅰ		
開講					
年次	1年	学科	歯科アシスタント科	単位数	2
使用教材	第3版 イラストと写真でわかる歯科材料の基礎			出版社	永未書店

科目の基礎情報②

授業のねらい	歯科材料を的確にかつ迅速に取り扱える技術を習得する。 清潔・不潔の概念を身につける。				
到達目標	歯科医院で使用される材料や器具の名称を覚え、標準的な取扱いができるようになる。 実習を通して作業の相互協力ができるようになる。				
評価基準	実技テスト（成果物評価を含む）70%、筆記試験(小テストを含む) 20%、実習参加度10%				
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者 成績評価が2以上の者				
関連資格	歯科助手検定1級				
関連科目	保存・補綴Ⅰ、チェアサイド実習Ⅰ、材料実習Ⅱ				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する				
担当教員				実務経験	
実務内容					

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション	オリエンテーション、歯科材料の基本知識について 印象材について、アルジネート印象材（ペーストタイプ）について
2	印象材	アルジネート印象材（粉末）顎模型片顎印象、印象の種類、よい印象とは、 各種トレーについて
3	印象材	アルジネート印象材（粉末）顎模型全顎印象、トレーの試適 ユーティリティーワックスの使い方、トレーの清掃
4	印象材と模型材	アルジネート印象材（粉末）片顎印象復習 石膏の取り扱いについて
5	印象材と模型材	アルジネート印象材（粉末）全顎印象復習 石膏注入、嘔吐反射の予防
6	衛生材料 ワックス	ワッテの取り扱い、ワッテの使用方法 ワックスの取り扱い、ワックスの種類と使用方法
7	復習	印象材と石膏の取り扱い、綿花の取り扱い、ワックスの取り扱い

8	合着材と接着剤	合着材と接着剤について、セメントの種類、使用器具 カルボキシレートセメント・ガラスアイオノマーセメント特徴と練和方法
9	合着材と接着剤	ガラスアイオノマー系レジンセメント・接着性レジンセメント特徴と使用方法
10	歯冠修復材 歯冠修復材	修復材・補綴材セットの流れ 充填用ガラスアイオノマーセメントの取り扱い
11	仮封材	仮封材：目的と方法、種類について、水硬性仮封材の取り扱い ストップング、仮封用軟質レジンの取り扱い
12	仮封材	酸化亜鉛ユージノールセメント・リン酸亜鉛セメント・サンダラックの取り扱い
13	仮着材	仮着材の取り扱い
14	テスト	期末テストの実施
15	前期の総まとめ	テストの振り返りと総まとめ

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	実技	科目名	材料実習Ⅱ		
必修選択	必修	(学則表記)	材料実習Ⅱ		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	歯科アシスタント科	2	60
使用教材	第3版 イラストと写真でわかる歯科材料の基礎		出版社	永未書店	

科目の基礎情報②

授業のねらい	歯科材料を的確にかつ迅速に取り扱える技術を習得する。				
到達目標	診療室の流れに沿った動きの確認をし、現場に合った臨機応変な対応ができるようになる。 半製品の歯科材料を治療の目的に合った稠度で準備できるようになる。				
評価基準	実技テスト（成果物評価を含む）70%、筆記試験(小テストを含む) 20%、実習参加度10%				
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者 成績評価が2以上の者				
関連資格	歯科助手検定1級				
関連科目	保存・補綴Ⅰ、保存・補綴Ⅱ、チェアサイド実習Ⅰ、チェアサイド実習Ⅱ、材料実習Ⅰ				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する				
担当教員				実務経験	
実務内容					

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	印象材	連合印象について アルジネートと寒天の連合印象・寒天印象材の取り扱い
2	印象材と模型材	寒天印象材とアルジネート印象の連合印象 バステクニック
3	印象材と模型材	ゴム質印象の取り扱いについて 連合印象と単純印象の比較
4	その他の材料	適合試験材、歯肉包帯剤、根管充填剤など
5	臨床実習対策	臨床実習対策
6	臨床実習対策	臨床実習対策
7	臨床実習振り返り	臨床実習の振り返り

8	臨床実習振り返り	臨床実習で学んだことの総まとめ
9	検定対策	歯科助手検定対策
10	検定対策	歯科助手検定対策
11	検定対策	歯科助手検定対策
12	総まとめ	1年の総まとめを行う
13	総まとめ	1年の総まとめを行う
14	テスト	期末テストの実施
15	総まとめ	テストの振り返りと総まとめ

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	演習	科目名	アプリケーション演習Ⅰ		
必修選択	選択	(学則表記)	アプリケーション演習Ⅰ		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	歯科アシスタント科	1	30
使用教材	30時間でマスター word & Excel		出版社	実教出版	

科目の基礎情報②

授業のねらい	現代の事務業務に不可欠であるパソコンの基礎知識および一般的に使用されるWord&Excelの操作を習得する				
到達目標	パソコンスキルの基本であるパソコンの操作（スキルの根幹で最重要スキル）から始め、オフィスでも必須のWord（文書作成ソフト）とExcel（表計算ソフト）の編集および連携を行う				
評価基準	小テスト：40%、提出課題：30%、授業態度30%				
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者 成績評価が2以上の者				
関連資格	パソコン技能検定3級				
関連科目	アプリケーション演習Ⅱ				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する				
担当教員		実務経験			
実務内容					

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	パソコンの基礎知識	【第1章】パソコンの基礎知識・OSについて
2	Word入門	【第2章】Wordの基本操作・タイピング練習
3	文章入力	【第3章】タイピング練習・文章入力練習
4	Wordの活用①	【第4章】基本的な編集機能・ビジネス文書の基本
5	Wordの活用②	【第4章】ビジネス文書作成・表作成
6	Wordの活用③	【第4章】ワードアート・クリップアート・図形
7	テスト(Word)	入力問題 Word問題

8	Excelの入門①	【第5章】 Excelの基本操作・データ入力 等
9	Excelの入門②	【第5章】 数式・基本的な関数 (SUM・AVERAGE等)
10	Excelの入門③	【第5章】 グラフの作成
11	Excelの入門④	【第5章】 表とグラフの練習問題
12	Excelの活用①	【第6章】 関数 (MAX・MIN・COUNT・RANK.EQ・ROUND・IF) の挿入
13	Excelの活用②	【第6章】 関数 (COUNTIF・SUMIF・VLOOKUP) の挿入
14	Excelの活用③	【第6章】 データベース機能 (条件付き書式 等)
15	Excelの活用④	【第6章】 関数とデータベース機能の練習問題

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	演習	科目名	アプリケーション演習Ⅱ			
必修選択	選択	(学則表記)	アプリケーション演習Ⅱ			
開講					単位数	時間数
年次	1年	学科	歯科アシスタント科	1	30	
使用教材	30時間でマスター Word & Excel			出版社	実教出版	

科目の基礎情報②

授業のねらい	現代の事務業務に不可欠であるパソコンの基礎知識および一般的に使用されるWord、Excel、PowerPointの操作を習得する				
到達目標	パソコンスキルの基本であるパソコンの操作から始め、オフィスで必須のWordとExcelの操作ができるようになる。 WordやExcel、PowerPointを用いて歯科院内掲示ポスターを作成できるようになる。 PowerPointの操作を学び、プレゼンテーション資料の作成・発表スキルを身に着ける。				
評価基準	小テスト40%、提出課題30%、授業態度30%				
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者 成績評価が2以上の者				
関連資格					
関連科目	アプリケーション演習Ⅰ				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する				
担当教員		実務経験			
実務内容					

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	アプリケーション演習Ⅰの復習 検定問題演習	第1～6章の復習実施 パソコン検定3級問題演習
2	検定問題演習①	パソコン検定3級問題演習
3	検定問題演習②	パソコン検定3級問題演習
4	検定問題演習③	パソコン検定3級問題演習
5	アプリ間のデータ活用	【第7章】 WordとExcelの連携
6	プレゼンテーションの基本 PowerPointの基本操作①	PowerPointを使用したプレゼンテーションについて説明 基本操作・プレゼンテーション作成の流れ説明 文字やスライドの編集・オブジェクト（図形・表とグラフ）の挿入
7	PowerPointの基本操作②	画面切り替え効果&アニメーション効果、ハイパーリンクについて

8	PowerPoint課題作成①	課題作成
9	PowerPoint課題作成②	課題作成
10	PowerPoint発表①	作成した課題を発表
11	PowerPointの応用操作	プレゼンテーションのカスタマイズ・SmartArtの活用について
12	PowerPoint課題作成①	歯科に関する研究課題作成
13	PowerPoint課題作成②	歯科に関する研究課題作成
14	PowerPoint発表②	作成した課題を発表
15	院内ポスターづくり	これまでに学んだ機能を使い、各自で歯科医院で作成しそうなポスター・掲示物を作成

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	症例研究		
必修選択	必修	(学則表記)	症例研究		
開講			単位数	時間数	
年次	1年	学科	歯科アシスタント科	1	15
使用教材			出版社		

科目の基礎情報②

授業のねらい	各症例における処置の流れを理解する。 症例によりその後の治療内容の相違点を学ぶ。 一連の治療の流れを総括的に学ぶ。				
到達目標	様々な症例を基に必要とされるアシスタントとしてのチェアワーク、患者さんへの留意事項、使用器具などの知識を理解できる。 各臨床教科で学んだ基礎知識と結び付け、より具体的な臨床での介助ができる。				
評価基準	各3回レポート提出				
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者 成績評価が2以上の者				
関連資格	歯科助手検定1級				
関連科目	歯科臨床教科全般				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する				
担当教員			実務経験		
実務内容					

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション 各種診断	授業の目的と進め方について デンタル・パノラマ・CT・口腔内写真での見方について
2	予防処置 充填処置	フッ素塗布・予防填塞について CRの各症例とInとの違いについて
3	インレー修復 歯髄保存処置	インレー修復の流れ・種類と特徴について 3ミックスについて
4	歯内療法 感染根管処置	根管治療の流れ・特別な器具と根充の流れについて 処置の注意点について
5	コア形成の種類 まとめ	症例別の治療手順と準備器具の違いについて 1回～4回のまとめ
6	クラウン形成～印象～セッティング	充填、インレー修復、歯内治療のポイントについて
7	クラウン・ブリッジ	クラウンやブリッジの種類や特徴について

8	クラウンの適応症例	歯周補綴・審美補綴・多数歯の補綴について
9	義歯 Brx	義歯の種類と作成の流れについて Brxの種類・スプリント・Hysの対処法・補綴後の破損防止について
10	まとめ	6回～9回のまとめ
11	抜歯 インプラント	普通抜歯・難抜歯について インプラントについて
12	歯周外科 GTR・GBR・APF	歯周外科に特化した器具や材料について 患者様への対応について
13	矯正 ホワイトニング	矯正装置の種類と器具、外科矯正について オフィスホワイトニングとホームホワイトニングの違いについて
14	小児歯科 X線読影	小児歯科に特化した器具や装置について デンタル・パノラマ・CTにおける解剖学的認識と病変の読影について
15	まとめ	全体の総括

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	実習	科目名	臨床実習		
必修選択	選択	(学則表記)	臨床実習		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	歯科アシスタント科	3	120
使用教材			出版社		

科目の基礎情報②

授業のねらい	<p>学校で学んだことを現場で実践することで、実践力を身につける。</p> <p>臨床実習を行う事により、医療現場に必要な知識や技術を理解する。</p> <p>今後自身が身につけるべき知識や技術を理解し、今後の就職・学習につなげる。</p>				
到達目標	<p>歯科医院での業務の流れを理解し、流れに沿った対応ができる。</p> <p>パキュームやパステクニックなどを実践し、現場に必要な技術を身につける事ができる。</p> <p>学校で学んだことを応用し、さらに技術力を向上させることができる。</p>				
評価基準	医療機関側（事項側評価）50%、（所感）20%、学校側評価（レポート実習手帳）30%				
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者 成績評価が2以上の者				
関連資格	歯科助手検定1級				
関連科目	チェアサイド実習Ⅰ・Ⅱ、材料実習Ⅰ・Ⅱ、歯科医療事務実践Ⅰ・Ⅱ				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する				
担当教員			実務経験		
実務内容					

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	未来デザインプログラムⅠ		
必修選択	選択	(学則表記)	未来デザインプログラムⅠ		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	歯科アシスタント科	1	15
使用教材	7つの習慣Ⅰテキスト、夢のスケッチブック		出版社		

科目の基礎情報②

授業のねらい	三幸学園の教育理念である「技能と心の調和」を体現する為の授業として、7つの習慣を体系的に学ぶことで、社会人／職業人としてあるべき人格を高め、主体性を発揮して物事にチャレンジできる人材に成長する				
到達目標	「自立」と「相互依存」のためにはどんな考え方や行動習慣が必要なのかを理解する 他者へのリーダーシップを醸成し、主体性を発揮できる様になる				
評価基準	授業態度40%、提出物40%、小テスト／レポート20%				
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者 成績評価が2以上の者				
関連資格	なし				
関連科目	職業対策Ⅰ・Ⅱ				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する				
担当教員			実務経験		
実務内容					

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	専門学校へようこそ！	未来デザインプログラム授業への価値付けを行い、日誌を書くことの意味や今日から実行できる機会を考える
2	自分制限パラダイムを解除しよう！	自分制限パラダイムの概念を知り、自分制限パラダイムを取り払った状態で行動が継続できる様に考える
3	自信貯金箱	自信貯金箱の概念を理解すると共に、自分自身への約束を守る大切さを学ぶ
4	刺激と反応	刺激と反応の考え方を理解し、どの様な状況でも一時停止ボタンを使い主体的に判断・行動していくことの大切さを考える
5	言霊～ことだま～	言葉の持つ力や自分の言動が、描く未来や成功に繋がっていくことを学ぶ
6	影響の輪	集中すべき事、集中すべきでない事を明確にし、今自分がやるべき事、考えるべき事を優先順位を考えながら整理していく大切さを学ぶ
7	選んだ道と選ばなかった道	自分の選択は自分の気持ち次第であり、自分が決めたことに対して、最後までやり遂げる大切さを学ぶ

8	「SDGs」とは？	国際目標であるSDGsとは何か？ またそのゴールは何かを学び、自分できることを考える
9	人生のビジョン	10年後のなりたい自分を考えることにより、スタプロで考えた「卒業時の姿」をより具体的に考える
10	自分の価値観を知る	なりたい姿を鮮明にすることの大切さを知り、自分の価値観を深掘りすることで、将来のなりたい姿を具体的にイメージできるプロセスを学ぶ
11	一番大切なことを優先する	スケジュールの立て方を学ぶ。自らが決意したことを実際の行動に移すことの大切さを学ぶ
12	時間管理のマトリクス	第2領域（緊急性はないが重要なこと）を優先したスケジュール管理について学ぶ
13	信頼貯金箱	信頼貯金箱の概念を理解し、周囲から信頼されるための考え方を学ぶ
14	私的成功の振り返り	主に私的成功の習慣（前期授業内容）の復習（知識確認）
15	成功するための原則	前期の総括とともに、あきらめないことの大切さを考えセルフモチベーションを高めていく

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	未来デザインプログラムⅡ		
必修選択	選択	(学則表記)	未来デザインプログラムⅡ		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	歯科アシスタント科	1	15
使用教材	7つの習慣」テキスト、夢のスケッチブック		出版社		

科目の基礎情報②

授業のねらい	三幸学園の教育理念である「技能と心の調和」を体現する為の授業として、7つの習慣を体系的に学ぶことで、社会人／職業人としてあるべき人格を高め、主体性を発揮して物事にチャレンジできる人材に成長する				
到達目標	「自立」と「相互依存」のためにはどんな考え方や行動習慣が必要なのかを理解する 他人へのリーダーシップを醸成し、主体性を発揮できる様になる				
評価基準	授業態度40%、提出物40%、小テスト／レポート20%				
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者 成績評価が2以上の者				
関連資格	なし				
関連科目	職業対策Ⅰ・Ⅱ				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する				
担当教員			実務経験		
実務内容					

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	Win-Winを考える	お互いがハッピーになれる方法を考えることの大切さを学ぶ
2	豊かさマインド	人を思いやることは自分自身のためでもあることを学ぶ
3	理解してから理解される	人の話の聴き方を考え、理解してから理解するという考え方があるということを学ぶ
4	相乗効果を発揮する	多様性や人と違いがあることに価値があることを学ぶ
5	自分を磨く	自分を磨くことの大切さ、学び続けることの大切さを考える
6	過去の自分とこれからの人生	具体的なライフプラン・人生の目的/目標設定を考える
7	人生ビジョンを見直そう	自らが立てたライフプランを現実的な視点から見つめ、必要な軌道修正を考える

8	未来マップを作ろう①	未来の自分の姿（仕事、家庭、趣味など）を写真や絵で表現するマップを作成し、将来の夢を実現するモチベーションを高めていく
9	未来マップを作ろう②	未来マップの発表を通して、自身の夢を実現する決意をする
10	感謝の心	人間関係構築/向上の基本である感謝の心について考える
11	X Yゲーム	ゲームを通じて未来デザインプログラムで学んだことを常に実践することは難しいということ学ぶ
12	未来デザインプログラムの振り返り	7つの習慣など、未来デザインプログラム授業で学んだことの復習（知識確認）
13	後期の総括	後期の総括と2年生にむけてモチベーションを高めていく
14	2年生に向けて①	1年後の自分の姿を鮮明にし、次年度への目標設定を考える
15	2年生に向けて②	1年後の自分の姿を鮮明にし、次年度への目標設定を考える